

各地の話題 大郷町

リンゴ防除にハダニの天敵活用 薬剤抵抗性にダニ剤で対処

2025 年6月 27 日号掲載

全国農業
新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

大郷町粕川地区でリンゴ1畝を栽培する上杉一乃歩さんは、薬剤抵抗性が発達したハダニに対処するため、これを捕食する天敵のミヤコカブリダニ剤を用いた栽培に令和元年から取り組んでいる。

ハダニはリンゴの葉に寄生して養液を吸い、被害が進むと樹勢や果実の肥大、糖度の低下が発生する。上杉さんがダニ剤の使用を始めたきっかけは薬剤防除の翌日にハダニの生息を確認したこと。「繁殖力が高く、短期間で世代交代するため抵抗性がつきやすい。以前から散布薬剤のローテーションに苦慮していたため防除方法の切り替えを考えた」と振り返る。

ダニ剤は孵化したハダニが圃場全体に広がる6月上旬に枝へ設置する。カブリダニが繁殖と活動しやすい環境を作るため、圃場にクローバーなどの広葉・低草丈の雑草を植え、乗用草刈機の刈刃高さを70mm以上に設定して管理している。樹1本当たり1～2パック使用し、100パック入りで約2万円だが「以前の防除費と比べても総額はほぼ同じ。ハダニが少し増えてきた際は、気門封鎖型の薬剤を散布してリカバーしている」と話す。

【記事執筆】 宮城県農業会議

ダニ剤を設置する上杉さん



ダニ剤は雨と日よけのため袋に入れる



雑草を70mm程度に刈り揃えた圃場

